

## 第8回 スマートウェイ推進会議作業部会 議事要旨（案）

## 1. 開催日時・場所

日時：2007年4月13日（金）10:00～12:00

場所：虎ノ門パストラル 新館6階 アジュール

## 2. 出席者（敬称略）

委員：川嶋部会長、赤羽、廻、上條、中山、西田、吹譯、山口、森（代理）、和迹（代理）、橋本、廣田

オブザーバー：加瀬川、小林、辻、山崎、中森、村重、足立、小嶋、野村

代理出席の委員は（代理）と表記

## 3. 主な意見等

- ・ 走りやすさマップについては、Webでの探索サービスの提供等が実施され使いやすくなってきた。カーナビ向け機能としては、PCで探索した走りやすさマップの情報をカーナビに転送できるような仕組みを、ナビメカ各社で議論していただけると良いと思う。
- ・ ルート探索においては、シーニックバイウェイ等、景観を楽しみたい人向けの検討も実施してほしい。
- ・ 走りやすさマップのデータについて、自治体等が情報を追加していけるような枠組みを作れるとよい。
- ・ 一回の登録で様々な場所でETCを利用できるようにしてほしい。ETCの普及を起点に様々なサービスを広げられる仕組みを作ると良い。
- ・ SA/PA等における情報接続についても積極的な取り組みを期待している。
- ・ 参宮橋の実験については、高機能舗装を同時期に行ったため、情報提供のみの効果が不明確といわれてきたが、高機能舗装の効果の持続期間と言われる2年近く経った現在でも事故件数は増えていないため、情報提供の効果はあると理解できる。
- ・ インターネットを活用した情報提供については、地域の観光情報提供に、ぜひ活用していただきたい。
- ・ 地図連携情報提供について、例えば事故多発地点情報提供については、同一地点で画一的な情報を提供するのではなく、事故が多発する時間帯や状況（天候等）を踏まえて情報提供することにより、ドライバーの負荷を少なくできる。
- ・ 路車協調による安全運転支援の分野において、日本は欧米と比べてかなり先行している。計画的な努力と資源の投入を行い、実用化を視野に入れて取り組んでほしい。日本発の技術を提案する良いチャンスである。
- ・ 車載器から収集するデータと路側で収集するデータのマッチングを行っておくことにより、今後の運用時において、路側で収集するデータだけでも活用することができる。良いデータの収集を継続してほしい。
- ・ 音声情報提供については、ドライバーにとって分かりやすい表現を工夫したほうが良いのではないか。
- ・ 情報提供（IP接続）については、携帯電話やカーナビ等を活用した民間のナビゲーションサービスとの棲み分けを考えることが必要。
- ・ 地図連携による情報提供については、逆走警報、交差点の一時停止への活用など、今後の高齢化社会を視野に入れた取り組みを進めて欲しい。
- ・ 今後のサービス展開については車載器の普及が課題となるが、光ビーコンとの連携を進めていただいていると認識している。

以上